

2025 年 6 月 19 日

学校法人三幸学園
福岡ビューティーアート専門学校
校長 岩本 克也 殿

学校関係者評価委員会
委員長 鈴木 裕太

学校関係者評価委員会実施報告

2024 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 鈴木 裕太 (SKILL 天神今泉 店長)
- ② 松田 仁 (コーセー化粧品販売株式会社 九州北支店 支店長)
- ③ 山崎 有紀 (GENKI JAPANESE&CULTURE SCHOOL 校長)
- ④ 岩田 健志 (有限会社エイペックス セールスマネージャー)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2025 年 6 月 19 日 (会場 福岡ビューティーアート専門学校 実技棟 401 教室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2024 年度 学校法人 三幸学園 福岡ビューティーアート専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 武藤 洋和・眞光 涼

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 鈴木 裕太

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ビューティー分野の学校として「人を美しくすることで人を元気にし、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ビューティー分野として「お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性化できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

【教育理念・目標】

学校の理念・目的・育成人物像の継続的な共有を施策としていたものの、学生及び保護者への周知は入学時の「保護者説明会」、入学後のオリエンテーション時に留まった。

【学校運営】

情報システムツールの環境設定を施策として取り組み、その点については整備することができた。今後は複数あるシステムの運用ルール、マニュアルを整備し、より効率的な運用に努めたい。

【教育活動】

学生状況把握のための定期ヒヤリング、資格取得のための強化週間の設定及び実施、同科目を持つ複数の教員間の課題、進捗の共有、体制の確立を施策に取り組んだ。学生状況のヒヤリングについては年度始めに実施したが、その後の定期的なヒヤリングは個々に行うことで対応。資格取得のための強化週間は主要科目を中心に実施。教員間の課題、進捗の共有については教科ごとの教科会を計画的に実施することでタイムリーに情報共有をおこなうことができた。

【学修成果】

業界の魅力付け、外部企業との連携を施策として取り組んだ。新入生については入学直後に企業が直接指導する特別授業を行う機会を全学科導入。また、上級生の授業においても企業から直接指導していただく授業をスポットで実施し、目標とする業界の魅力や、やりがいを感じ取れる機会を設けることはできた。

【学生支援】

高専接続の強化を施策として取り組んだ。高校が来校しての学校見学や高校内で行われる進路ガイダンスへの参画は昨年度以上に実施した。今後は高校側への認知拡大の機会を増やし、接続を強固なものにしていきたい。

【教育環境】

施設実習・インターンシップ・海外研修の体系化と希望者増を施策として取り組んだ。2ヵ年計画且つ関連する就職関連の授業内容と連携してシラバスを組み実施できた。また、学生への周知の際には統一した資料を使用し、固定した教員で周知することで認識や理解の差が生じることはなく、希望者増に繋がった。

【学生の受け入れ募集】

入学前後のギャップによる退学などの防止を施策として取り組んだ。入学者向けのオープンキャンパス時では投影資料、机上資料を、入学後のスケジュールと繋がるようリニューアル。また参加者全員への説明は内容を固定し、話者を固定することで共通した内容が落とせる環境を設定した。

【社会貢献・地域貢献】

社会貢献・地域貢献については現在行っている諸活動の維持を掲げて取り組んだ。博多まちづくり推進協議会主催のクリーンデイへの継続参加及び、複数の美容専門学校間で行われる『天神イベント』への参加し、美容業界の認知拡大を行った。

② 学校関係者評価委員会コメント

特になし

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

理念、目的、育成人材像など掲げているものの、具体的な指導を実施できていない。また、生徒や保護者が目にする機会が少ない。

② 今後の改善方策

- ・入学時の保護者説明会は対面実施。2025年度はいつでも視聴できるようオンデマンド形式実施。
- また、学校と保護者との連絡ツール“スクリレ”を導入。
- ・教育目標、育成人材像に伴った、年間施策をキャリアデザイン授業で対応

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

〈松田委員〉美容科・トータルビューティー科

入学時後の落とし込みは一番重要。当社でも入社後に同様の機会を設けている。また、その後に定期研修の機会を設け、理念等の浸透度合いを確認する機会と、改めて落とし込む機会としている。

また、企業自体がどの方向に進んでいるか、進捗を伝える機会も設けている。

〈鈴木委員〉美容科

当社では技術はもちろんのこと、人として成長していくことも重要だと考えている。目標設定は仕事に関するものだけではなく、家族や友人との関係をどう築いていくかなど仕事と共に自身のプライベートの充実も図っている。月に一回は社員との面談を実施し、上記の途中経過を確認している。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

情報システム昨年度時点では環境を整えることはできたため、今後は効率化を図る必要がある。

② 今後の改善方策

効率的に活用するためのマニュアルやルール化

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

〈山崎委員〉美容科・トータルビューティー科

学生管理システムを世界規模で良いシステムを厳選し導入している。ただ、ICT関連のシステムは日進月歩であり、導入に時間をかけている間に最新のシステムが開発される実情がある。これまで様々なシステムを使用してきたが、浸透するためには常にシンプルであることが基準。使用の仕方が複雑になればなるほど浸透しない。

新たにシステムを導入する際には、導入後にこれまでの業務フローがどう変わっていくのかを図面化してマニュアル化していくことが重要。また、たくさんのシステムを導入することで資金面の負担も増えるため、この面においてもシンプルが重要。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）について、短期的な実習は実施されているものの、普段の授業との連動など長期的なカリキュラムの設定・授業進行がなされていない。

・カリキュラムは取得する資格・検定に則ったものになっているものの、資格・検定取得の目的・取得することによるメリット・将来の業務とのリンクなど、動機付けや継続的な指導の点において課題が残る。

② 今後の改善方策

- ・キャリア関連授業(就職対策/キャリアデザイン)のシラバスの見直し。
- ・資格・検定の『リファレンスガイド(仮称)』の作成と活用。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

〈岩田委員〉美容科・トータルビューティー科

美容商材のディーラーやメーカー業界の一つとなる。ただ、商品理解の観点から“美容師免許”を持ち、実務経験が3年は必要となり、インターンシップの受け入れは現実的に難しい。ただし、業界理解の観点から業界理解のガイダンス等で学生向けに業界理解・業種理解の機会を設けることは可能。美容業界の裾野を広げる活動は美容師のセカンドキャリアを考える機会としても有効。

〈鈴木委員〉美容科

在学中の国家試験対策のためのサポートはとても手厚かった。卒業して感じたことはお客様とのコミュニケーション能力をつけるためのカリキュラム、SNSに関する知識や能力の必要性。こういった内容の強化を図れるカリキュラムが充実すると良い。スキルはもちろんだが、人間力を高める必要性や高めるための取り組みを導入できると良い。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・退学率を除く数値は良い結果とは言えない。
- ・キャリア指導の体系化
- ・卒業生との関りが希薄。

② 今後の改善方策

- ・キャリア関連授業(就職対策)の年間シラバスの再作成。普段の授業とともに業界関係者からの直接的に指導をいただく機会や、就職ガイダンス、インターンシップも含めて2年間を見越した内容にする。また、サポートする教職の役割を明確にし、学生たちの相談窓口も明確にする。
- ・企業側との状況共有や求人獲得については、対外折衝の機会を計画的に設定。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

〈松田委員〉美容科・トータルビューティー科

企業の規模にもよるが、企業側が出身校を絞り、その卒業生の活躍や状況確認は難しい。卒業生とのコンタクトは学校側からその卒業生へ個別に連絡をとっていただき、進めていただくことが現実的。出身校への派遣等は積極的に許可したいと考えている。卒業生と在校生との交流の場は企業側としても実施して欲しい。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

積極的な高専接続(職業教育)は体系的には実施できていない。

② 今後の改善施策

高専接続については、地域広報室との連携により職業教育機会の創出(現状、通信制高等学校の授業へ講師派遣)を継続的に行う。また、中学校や高等学校からの学校見学等の積極受入れ。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

〈山崎委員〉美容科・トータルビューティー科

日本語学校に通う学生は卒業後に日本での進学や就業を考えている。日本の文化に触れる機会を多く設けており、先ずはそういった機会や互いの行事に機会に参加することで美容を中心とした専門的な職業を知る機会もつく

ることができる。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

教育環境の整備はしているものの、希望者及び実習受け入れ先が限定的

② 今後の改善方策

長期的な実習に限らず、1Dayインターンなど短期的な実習機会の整備と対外折衝の強化による受け入れ先の確保。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

〈岩田委員〉美容科・トータルビューティー科

他の専門学校のSNSの授業では、モデルハントからスタイル撮影、発信までの一連の流れをつくり、個人アカウントを育てていく授業を展開。これ自体が就職活動になる。施設については内容をトレンドに合わせて定期的に改装を行うことで広報的な好影響もある。

〈山崎委員〉美容科・トータルビューティー科

美容の技術に留まらず、マーケティングも含めて養成していくことが必要。自分の技術を市場に落としていく方法や学べることは長期的活躍できる人材の輩出にも繋がる。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

入学前後のギャップ(実技科目と座学科目の数／授業時の事前説明会の充実)

② 今後の改善方策

- ・成果の見える化(授業の内容／入学後の授業選択スケジュール／資格検定の種類や受験時期)
- ・入学後、早期に業界理解(体験型)授業の実施と通常授業との接続。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(8)財務

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3期中期計画(2023 年度～2027 年度)の2年目にあたり、中期計画及び進捗状況はホームページ上に公開している。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

第3期中期計画については、東京未来大学及び小田原短期大学の中計改定に加え、東京みらい中学校及び支援学校仙台みらい高等学園の内容を追加し、第3期中期経営計画(第2版)として改定する予定である。

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

適切な学校運営と情報公開を継続していく。

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

地域連携については、限定的な参加に留まっている。

② 今後の改善方策

専門職の配置により、外部連携の取り組みへの積極参加。

③ 特記事項

特になし。

④ 学校関係者評価委員コメント

〈松田委員〉美容科・トータルビューティー科

化粧品メーカーとして幼稚園への日やけ止めの提供、高校球児や女子サッカーの選手たちへの紫外線予防の研修や商品の提供を行っている。また、ある化粧品の売り上げの一部をサンゴの養殖や水質保全のための活動の一部に寄付している。どの活動も提案をすることで実現しており、学校側から新たな取り組みを提案していくことが重要。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

〈眞光副校長〉

今回の評価で得られた意見を真摯に受け止め、2025 年度中に具体的な取り組みを開始するもの、あるいは2026 年度以降の学校運営に反映させていく方針を示す。

また、学生の日々の学びが学内のみに留まる傾向にある点を課題として認識しており、このため、後は学外の企業との連携を強化し、学生が実社会の中で顧客から直接感謝の言葉を受け取る機会を増やすことの重要性を強調した。関係者の皆様には、このような連携の機会にお力添え頂きたい。

以上